

ワケ カタチには理由がある(番外編?)

～サブマリン 707



↑(出典：マンガ「サブマリン 707」第2巻の内表紙画©小沢さとる)

1963年～1965年に少年サンデーで連載された、小沢さとる先生の海洋冒険マンガの金字塔「サブマリン 707」の1世改です。私は、秋田書店の単行本を読んだ世代ですが(手元にある第1巻をみると1973年の第23版!)、707という艦名を共通としながら、1世、1世改、2世と主人公である潜水艦が変わっていく展開にワクワクしたものです。今読み返しても、潜水艦の正面からの煽りの画は素晴らしく、連載当時はアニメ化されなかったものの、「サブマリン 707」がなければ宇宙戦艦ヤマトはなかったのではないかと思います。数年前、「アニ玉祭」で、小沢さとる先生と宮武一貴先生の対談を聞きましたが、名だたるアニメの作り手が影響を受けていることを改めて認識しました。この1世改は、第1巻途中でU結社の潜水艦に中破させられた1世を改装してから、第2巻途中、ジュニアの試験航海においてムー船団の潜水艦に沈められてしまうまで活躍期間は短いのですが、個人的には一番好きな707です。

【模型について】

海上自衛隊所属の707 1世は米海軍のお下がり、ガトー級潜水艦ということなので、台湾のAFVクラブ製1/350のキットをもとに改造しました。ジュニアはツクダ製1/350のソフビキットについていたものを流用しています。



(中川裕幸 2021年5月)